経済 TOPICS

No. 226

（2023年12月18日）

景気ウォッチング（要旨）

日本　…　生産がやや持ち直し、輸出が弱めの動きとなるなか、消費や設備投資が横這い圏内の動きにとどまっていることから、全体としては回復テンポが鈍化している。消費者物価は、国内企業物価が前年並みの水準まで下落したことなどから、均してみると緩やかな下落傾向にあるが、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きが続いている。この間、海外での軍事紛争の拡大に伴う影響が懸念されるなど、先行き不透明感の強い状態が続いている。

米国　…　生産や設備投資が横這い圏内の動きを続け、住宅販売が減少しているものの、個人消費が引き続き堅調なことから、全体としては緩やかな回復を続けている。消費者物価は、食料の前年比プラス幅の縮小などから、全体としては下落傾向にあるが、サービス価格の上昇圧力が続いている。

（参考）物価動向

〈日本〉　エネルギー価格の前年比マイナスが続き、生鮮食品を除く食料価格にピークアウトの兆しがみられることから、均してみると緩やかな下落傾向にあるが、サービス価格の上昇圧力や価格転嫁の動きが続いている。

〈米国〉　エネルギー価格の前年比マイナスが続き、食料価格も落ち着いてきていることから、全体としては下落傾向が続いているが、人件費の上昇に伴うサービス価格の上昇圧力が続いている。